

新専門医制度 内科領域

# 西神戸医療センター 内科専門医研修プログラム



## 内科専門医研修プログラム

1. 理念・使命・特性・・・・・・・・・・・・・・・・P. 3
2. 募集専攻医数・・・・・・・・・・・・・・・・P. 5
3. 専門知識・専門技能とは・・・・・・・・P. 6
4. 専門知識・専門技能の習得計画・・・・・・・・P. 6
5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス・・P. 10
6. リサーチマインドの養成計画・・・・・・・・P. 10
7. 学術活動に関する研修計画・・・・・・・・P. 10
8. コア・コンピテンシーの研修計画・・・・・・・・P. 11
9. 地域医療における施設群の役割・・・・・・・・P. 11
10. 地域医療に対する研修計画・・・・・・・・P. 13
11. 内科専攻医研修モデル・・・・・・・・P. 14
12. 専攻医の評価時期と方法・・・・・・・・P. 14
13. 専門研修委員会の運営計画・・・・・・・・P. 17
14. プログラムとしての指導者研修の計画・・・・・・・・P. 18
15. 専攻医の就業環境の整備機能・・・・・・・・P. 18
16. 内科専門研修プログラムの改善方法・・・・・・・・P. 18
17. 専攻医の募集および採用の方法・・・・・・・・P. 19
18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，  
プログラム外研修の条件・・・・・・・・P. 20

## 専門研修施設群

専門研修施設群の構成要件	P. 21
専門研修施設（連携施設）の選択	P. 22
各専門研修施設の概要	P. 22
専門施設群の特徴	P. 22
専門研修施設群の地理的範囲	P. 23
専門研修基幹施設	
神戸市立西神戸医療センター	P. 26
専門研修連携施設	
神戸市立医療センター中央市民病院	P. 28
神戸市立医療センター西市民病院	P. 30
京都大学医学部附属病院	P. 32
神戸大学医学部附属病院	P. 34
国立病院機構神戸医療センター	P. 36
北播磨総合医療センター	P. 38
愛仁会明石医療センター	P. 40
倫生会みどり病院	P. 42
伯鳳会赤穂中央病院	P. 43
日本赤十字社和歌山医療センター	P. 44
大阪府済生会中津病院	P. 46
札幌医科大学附属病院	P. 48
大阪府済生会野江病院	P. 50
関西電力病院	P. 52
兵庫県立はりま姫路総合医療センター	P. 54
宇治徳洲会病院	P. 56
丹後中央病院	P. 57
田附興風会北野病院	P. 59
平戸市民病院	P. 61
兵庫県立尼崎総合医療センター	P. 62
日本赤十字社大阪赤十字病院	P. 64
甲南会甲南医療センター	P. 66
京都桂病院	P. 68

専門研修プログラム管理委員会	P. 70
西神戸医療センター 疾患群 症例 病歴要約 到達目標	P. 71

## 理念【整備基準 1】

- 1) 本プログラムは、兵庫県神戸市西地区医療圏の中心的な急性期病院である神戸市立西神戸医療センターを基幹施設として、神戸市西地区医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て神戸市の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医育成を行います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間＋連携施設1年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

## 使命【整備基準 2】

- 1) 神戸市西地区医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報や技術を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

## 特性

- 1) 本プログラムは、神戸市西地区医療圏の中心的な急性期病院である神戸市立西神戸医療センターを

基幹施設として、神戸市西地区医療圏、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設2年間＋連携施設1年間の3年間になります。

- 2) 西神戸医療センター内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である神戸市立西神戸医療センターは、神戸市西地区医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモディージェズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- 4) 専攻医2年修了時には、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（以下J-OSLER）に登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます（P.71 別表1「西神戸医療センター 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。
- 5) 西神戸医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修3年目の1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6) 基幹施設である神戸市立西神戸医療センターでの2年間と専門研修施設群での1年間（専攻医3年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験し、J-OSLERに登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目標とします（P.71 別表1「西神戸医療センター 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。

### 専門研修後の成果【整備基準3】

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- 2) 内科系救急医療の専門医
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医

#### 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。西神戸医療センター内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、神戸市西地区医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

## 2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により、西神戸医療センター内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 5 名とします。

- 1) 神戸市立西神戸医療センター内科後期研修医は 2023 年 4 月現在、3 学年併せて 9 名で 1 学年 2～5 名の実績があります。
- 2) 雇用人員数に一定の制限があるので、募集定員の大幅増は現実性に乏しいです。
- 3) 剖検体数は 2018 年度 14 体、2019 年度 12 体、2020 年度 6 体、2021 年度 5 体です。

表. 神戸市立西神戸医療センター診療科別診療実績 (2021 年度)

2021 年度実績	新入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
消化器内科	1,305	36,691
呼吸器内科	716	13,281
循環器内科	600	14,779
免疫血液内科	325	18,935
脳神経内科	347	16,030
糖尿病内分泌内科	111	15,128
腎臓内科	176	8,523
総合内科	119	2,272

- 4) 膠原病 (リウマチ)、アレルギー領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め、1 学年 5 名に対し十分な症例を経験可能です。
- 5) 8 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています (P. 21 「西神戸医療センター内科専門研修施

設群」参照).

- 6) 1 学年 5 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳 (疾患群項目表)」に定められた 45 疾患群、120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。
- 7) 専攻医 2 年目に研修する連携施設には、高次機能・専門病院 5 施設、地域基幹病院 5 施設および地域医療密着型病院 2 施設、計 12 施設あり、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です。
- 8) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳 (疾患群項目表)」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験は達成可能です。

### 3. 専門知識・専門技能とは

#### 1) 専門知識【整備基準 4】[「内科研修カリキュラム項目表」参照]

専門知識の範囲(分野)は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標(到達レベル)とします。

#### 2) 専門技能【整備基準 5】[「技術・技能評価手帳」参照]

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

### 4. 専門知識・専門技能の習得計画

#### 1) 到達目標【整備基準 8~10】

(P.71 別表 1「西神戸医療センター 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照)

主担当医として「研修手帳 (疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。

内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修(専攻医)年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

#### ○専門研修(専攻医) 1 年:

- 症例:「研修手帳 (疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。

- 専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します。
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

#### ○専門研修（専攻医） 2 年：

- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，120 症例以上の経験をし，J-OSLER にその研修内容を登録します。
- 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します。
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

#### ○専門研修（専攻医） 3 年：

- 症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します。
- 専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
- 既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します。但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
- 技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます。
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。  
また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります。  
専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

西神戸医療センター内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間（基幹施設2年間＋連携施設1年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

## 2) 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかつた症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的（毎週1回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 1年次に一般内科外来（初診を含む）を少なくとも週1回、1年間担当して経験を積みます。3年次には初診再診外来を担当します。
- ④ 1年次に週1回程度の専攻医当直（準夜帯のみ：全科の初期救急対応と初期研修医の指導）を担当し、救急診療の経験を積みます。3年次は内科当直医として、救急入院患者処置や病棟急変対応などの経験を積みます。
- ⑤ 2年次は連携病院での外来、当直業務を担当し、地域医療の経験を積みます。
- ⑥ 必要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します。

## 3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1) 内科領域の救急対応、2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

- ① 定期的（毎週1回程度）に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設2022年度実績5回）

※内科専攻医は年に2回以上受講します。



- ③ CPC（基幹施設 2022 年度実績 5 回）
- ④ 研修施設群合同カンファレンス（2023 年度：年 2 回開催予定）
- ⑤ 地域参加型のオープンカンファレンス（基幹施設：消化器オープンカンファレンス、西神戸 NST オープンカンファレンス、西神戸糖尿病・内分泌オープンカンファレンス、西神戸透析合同カンファレンス、神戸西地域呼吸器疾患合同カンファレンス、RMT セミナー、循環器カンファレンス；2022 年度実績 29 回）
- ⑥ JMECC 受講（基幹施設：開催実績 2021 年度 1 回，2022 年度 1 回：受講者各 6 名）  
※内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。
- ⑦ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
- ⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会  
など

#### 4) 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した）、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。（「研修カリキュラム項目表」参照）

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

- ① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にある MCQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題  
など

#### 5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

- 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- 専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約

評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。

- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

## 5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13, 14】

基幹施設におけるカンファレンスは4. 2), 3) に記載した通りです。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である神戸市立西神戸医療センター学術研修部が把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。

## 6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

西神戸医療センター内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM; evidence based medicine）。
- ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）。
- ④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。

併せて、

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
  - ② 後輩専攻医の指導を行う。
  - ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。
- を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

## 7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

西神戸医療センター内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します（必須）。

※ 日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。

- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います。

## 8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

西神戸医療センター内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である神戸市立西神戸医療センター学術研修部が把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけでなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

## 9. 地域医療における施設群の役割【整備基準11, 28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。西神戸医療センター内科専門研修施設群研修施設は神戸市西地区医療圏および近隣医療圏の医療機関から構成されています。

神戸市立西神戸医療センターは、神戸市西地区医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・

専門病院である神戸市立医療センター中央市民病院（神戸市中央区）・京都大学医学部附属病院（京都市）・神戸大学医学部附属病院（神戸市中央区）・日本赤十字社和歌山医療センター（和歌山市）・札幌医科大学附属病院（北海道札幌市）・関西医科大学附属病院（大阪府枚方市）、地域基幹病院である神戸市立医療センター西市民病院（神戸市長田区）・国立病院機構神戸医療センター（神戸市須磨区）・甲南会甲南医療センター（神戸市東灘区）・北播磨総合医療センター（兵庫県小野市）・愛仁会明石医療センター（兵庫県明石市）・兵庫県立はりま姫路総合医療センター（兵庫県姫路市）・兵庫県立尼崎総合医療センター（兵庫県尼崎市）・大阪府済生会中津病院（大阪市）・大阪府済生会野江病院（大阪市）・関西電力病院（大阪市）・田附興風会北野病院（大阪市）・大阪赤十字病院（大阪市）・京都桂病院（京都市）・宇治徳洲会病院（京都府宇治市）および地域医療密着型病院である倫生会みどり病院（神戸市西区）・伯鳳会赤穂中央病院（兵庫県赤穂市）・丹後中央病院（京都府京丹後市）・平戸市民病院（長崎県平戸市）で構成しています。

神戸市立西神戸医療センターは神戸市立医療センター中央市民病院、同西市民病院との3病院で神戸市民病院として役割分担し、神戸市全体の地域医療の中核を担っています。（中央市民病院は神戸市全体の基幹病院、救命救急センター。西市民病院は神戸市街地西部（兵庫・長田・須磨区）の中核病院、二次救急医療機関。西神戸医療センターは神戸西地域（須磨・垂水・西区）の中核病院、二次救急医療機関。）この3病院は定期的に合同学術研究フォーラムを開催するなどして交流を図っています。同じ神戸市内にあって医療環境の異なる中核病院で研修することにより、幅広い臨床能力が養われると期待できます。

京都大学医学部附属病院、神戸大学医学部付附属病院、日本赤十字社和歌山医療センター、札幌医科大学附属病院、関西医科大学附属病院は高次機能病院で、コモンディーズから希有な疾患まで豊富な症例を経験することができます。希有疾患の診療を通して、幅広い知見の習得やリサーチマインドの涵養に適した環境といえます。

国立病院機構神戸医療センターは神戸市西地域（須磨区）の中核病院で、神戸市立西神戸医療センターと診療圏が重なっています。同一診療圏内の、医療環境の異なる中核病院で研修することによって、幅広い視野を身につけることができると期待されます。

北播磨総合医療センター、愛仁会明石医療センター、兵庫県立はりま姫路総合医療センターはそれぞれ北播磨地域（小野、三木市）、東播磨地域（明石市）、中播磨地域（姫路市）という神戸市西地域と隣接した診療圏の中核病院です。兵庫県立尼崎総合医療センター、大阪府済生会中津病院、大阪府済生会野江病院、関西電力病院、田附興風会北野病院、大阪赤十字病院、京都桂病院、宇治徳洲会病院はそれぞれの地域の中核病院で、救急医療・高度医療を担っています。異なる地域で、違う視点から地域医療を経験することができ、臨床能力をさらに深めることができます。

倫生会みどり病院は神戸市西区の地域密着型病院として地域医療の最前線で活躍しており、近年では心臓弁膜症を中心とした循環器疾患診療に力を注いでいます。神戸市立西神戸医療センターとは20年以上にわたって病病連携を密にとっており、定期的に合同研究会を開催しています。神戸市西区での地域医療の最前線、当センターとの患者紹介・逆紹介の現状を体験するには最適の病院です。伯鳳

会赤穂中央病院は兵庫県赤穂市の地域密着型病院で、西播磨地域における中核病院です。神戸市立西神戸医療センターの医療圏である神戸西地域とは異なる地域性、人口分布、人口密度であり、多様な症例、患者対応についての経験を期待できること、また同院には当センターでの勤務経験のある内科医師が3名（副院長、血液内科、消化器内科）在籍しているため、異なる地域医療圏での研修をスムーズに行えると期待しています。丹後中央病院は京都府京丹後市の地域密着病院です。平戸市民病院は長崎県平戸市の地域密着病院です。以前より神戸市立西神戸医療センターの初期研修における地域医療研修施設として交流があり、離島での診療を含め、地域に密着した医療を経験できます。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、西神戸医療センターと異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

西神戸医療センター内科専門研修施設群(P.21)は、神戸市西地域医療圏と近隣医療圏にある施設を中心に構成されています。兵庫県内の病院の多くは神戸市立西神戸医療センターの宿舎から通勤可能です。兵庫県外の病院での研修中には宿舎が必要になりますので、研修先の病院と相談の上で各自で宿舎を確保していただきます。

## 10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

西神戸医療センター内科施設群専門研修では、症例のある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

西神戸医療センター内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

## 11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

医師 国家 試験 合格	初期臨床研修 2年	内科専門研修			内科・消化器内科
					内科・呼吸器内科
					内科・循環器内科
					内科・免疫・血液内科
		基幹施設 での研修	連携施設 での研修	基幹施設 での研修	内科・神経内科
					内科・内分泌糖尿内科
					内科・腎臓内科
卒後1年	2年	3年	4年	5年	
			病歴提出	筆記試験	

図1. 西神戸医療センター内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である神戸市立西神戸医療センター内科で、専門研修（専攻医）1年目に1年間の専門研修を行います。専攻医1年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に，専攻医2年目の研修施設を調整し決定します。

専攻医2年目の1年間は連携施設での研修を行います。連携施設では地域医療の研修が中心になりますが、希望により subspecialty 研修も可能です。

専攻医3年目の1年間は神戸市立西神戸医療センターに戻って研修をします。この期間は subspecialty 研修が中心となります。未研修領域があれば、この間に併行して研修を行います。

## 12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19～22】

### (1) 神戸市立西神戸医療センター学術研修部の役割

- 西神戸医療センター内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
- 西神戸医療センター内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- 3か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による J-OSLER への記入を促します。また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します。また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 年に複数回（8月と2月，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され，1か月以内に担当指導医によって専攻医に形式的にフィードバックを

行って、改善を促します。

- 学術研修部は、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、学術研修部もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医から形式的にフィードバックを行います。
- 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

## (2) 専攻医と担当指導医の役割

- 専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が西神戸医療センター内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- 専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や学術研修部からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 専攻医は、専門研修（専攻医）2 年修了時までには 29 症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLER に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形式的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形式的に深化させます。

### (3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに西神戸医療センター内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

### (4) 修了判定基準【整備基準 53】

- 1) 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し、以下 i)～vi)の修了を確認します。
  - i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済み（P.71 別表 1「西神戸医療センター疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。
  - ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）
  - iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
  - iv) JMECC 受講
  - v) プログラムで定める講習会受講
  - vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性
- 2) 西神戸医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に西神戸医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

### (5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。

なお、「西神戸医療センター内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「西神戸医療センター内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】と別に示します。



### 13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37～39】

(P. 70「西神戸医療センター内科専門研修管理委員会」参照)

#### 西神戸医療センター内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。

内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（診療部長）、プログラム管理者（診療科長）、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科長）および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（P. 70 西神戸医療センター内科専門研修プログラム管理委員会参照）。西神戸医療センター内科専門研修管理委員会の事務局を、神戸市立西神戸医療センター学術研修部におきます。

ii) 西神戸医療センター内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 2 回開催する西神戸医療センター内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、西神戸医療センター内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。

#### ① 前年度の診療実績

a) 病院病床数, b) 内科病床数, c) 内科診療科数, d) 1 か月あたり内科外来患者数, e) 1 か月あたり内科入院患者数, f) 剖検数

#### ② 専門研修指導医数および専攻医数

a) 前年度の専攻医の指導実績, b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数, c) 今年度の専攻医数, d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数。

#### ③ 前年度の学術活動

a) 学会発表, b) 論文発表

#### ④ 施設状況

a) 施設区分, b) 指導可能領域, c) 内科カンファレンス, d) 他科との合同カンファレンス, e) 抄読会, f) 机, g) 図書館, h) 文献検索システム, i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会, j) JMECC の開催。

#### ⑤ Subspecialty 領域の専門医数

## 14. プログラムとしての指導者研修の計画【整備基準 18, 43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。

## 15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修（専攻医）1年目、3年目は基幹施設である神戸市立西神戸医療センターの就業環境に、専門研修（専攻医）2年目は連携施設の就業環境に基づき、就業します（P. 21「西神戸医療センター内科専門研修施設群」参照）。

基幹施設である神戸市立西神戸医療センターの整備状況：

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付正規職員として労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。
- ハラスメント委員会が機構内に整備されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
- 基幹施設における時間外・休日労働の想定最大時間数は年間 1,230 時間（C-1 水準指定申請予定）です。（令和 4 年度実績：平均 936 時間）

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P. 21「西神戸医療センター内科専門施設群」を参照。

また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は西神戸医療センター内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

## 16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

### 1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、西神戸医療センター内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

## 2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会，西神戸医療センター内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については，西神戸医療センター内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

- ① 即時改善を要する事項
- ② 年度内に改善を要する事項
- ③ 数年をかけて改善を要する事項
- ④ 内科領域全体で改善を要する事項
- ⑤ 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- 担当指導医，施設の内科研修委員会，西神戸医療センター内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，西神戸医療センター内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して西神戸医療センター内科専門研修プログラムを評価します。
- 担当指導医，各施設の内科研修委員会，西神戸医療センター内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます。状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます。

## 3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

神戸市立西神戸医療センター学術研修部と西神戸医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は，西神戸医療センター内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に，必要に応じて西神戸医療センター内科専門研修プログラムの改良を行います。

西神戸医療センター内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

## 17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は，神戸市立西神戸医療センターの website の神戸市立西神戸医療センター医師募集要項（西神戸医療センター内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考、筆記試験および面接を行い，西神戸医療センター内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します。

(問い合わせ先)神戸市立西神戸医療センター学術研修部

E-mail: n\_soumu@kcho.jp    HP: <http://nmc.kcho.jp/>

西神戸医療センター内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います。

## 18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて西神戸医療センター内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、西神戸医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから西神戸医療センター内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から西神戸医療センター内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに西神戸医療センター内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が6ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1日8時間、週5日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

## 西神戸医療センター内科専門研修施設群

研修期間：3年間（基幹施設2年間＋連携施設1年間）

医師 国家 試験 合格	初期臨床研修 2年	内科専門研修			内科・消化器内科
					内科・呼吸器内科
					内科・循環器内科
					内科・免疫・血液内科
		基幹施設 での研修	連携施設 での研修	基幹施設 での研修	内科・神経内科
					内科・内分泌糖尿内科
					内科・腎臓内科
卒後1年	2年	3年	4年	5年	
			病歴提出	筆記試験	

図1. 西神戸医療センター内科専門研修プログラム（概念図）

### 専門研修施設群の構成要件【整備基準25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。西神戸医療センター内科専門研修施設群研修施設は兵庫県神戸市、小野市、明石市、姫路市、赤穂市、尼崎市および京都府、大阪府、和歌山県、札幌市、長崎県の医療機関から構成されています。

神戸市立西神戸医療センターは、神戸市西地域医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である神戸市立医療センター中央市民病院、京都大学医学部附属病院、神戸大学医学部附属病院、札幌医科大学附属病院、関西医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センター、地域基幹病院である神戸市立医療センター西市民病院、国立病院機構神戸医療センター、甲南会甲南医療センター、北播磨総合医療センター、愛仁会明石医療センター、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、兵庫県立尼崎総合医療センター、大阪府済生会中津病院、大阪府済生会野江病院、関西電力病院、田附興風会北野病院、大阪赤十字病院、京都桂病院、宇治徳洲会病院、および地域医療密着型病院である倫生会みどり病院、伯鳳会赤穂中央病院、丹後中央病院、平戸市民病院で構成しています。高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。地域医療密着型病院では、地域に根ざした医

療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

## 専門研修施設（連携施設）の選択

- 専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修施設を調整し決定します。
- 専攻医 2 年目の 1 年間，連携施設で研修をします。連携施設では地域医療の研修が中心になりますが，希望により subspecialty 研修も可能です。
- 専攻医 3 年目の 1 年間は，神戸市立西神戸医療センターに戻って研修をします。この期間は subspecialty 研修が中心となります。未研修領域があれば，この間に併行して研修を行います。

## 西神戸医療センター内科専門研修施設群研修施設（表 1，表 2）

### 専門施設群の特徴

神戸市立西神戸医療センターは神戸市立医療センター中央市民病院，同西市民病院との 3 病院で神戸市民病院として役割分担し，神戸市全体の地域医療の中核を担っています。（中央市民病院は神戸市全体の基幹病院，救命救急センター。西市民病院は神戸市街地西部（兵庫・長田・須磨区）の中核病院，二次救急医療機関。西神戸医療センターは神戸西地域（須磨・垂水・西区）の中核病院，二次救急医療機関。）この 3 病院は定期的に合同学術研究フォーラムを開催するなどして交流を図っています。同じ神戸市内にあっても医療環境の異なる中核病院で研修することにより，幅広い臨床能力が養われると期待できます。

京都大学医学部附属病院，神戸大学医学部附属病院，日本赤十字社和歌山医療センター，札幌医科大学附属病院，関西医科大学附属病院は高次機能病院で，コモンディーズから希有な疾患まで豊富な症例を経験することができます。希有疾患の診療を通して，幅広い知見の習得やリサーチマインドの涵養に適した環境といえます。

国立病院機構神戸医療センターは神戸市西地域（須磨区）の中核病院で，神戸市立西神戸医療センターと診療圏が重なっています。同一診療圏内の，医療環境の異なる中核病院で研修することによって，幅広い視野を身につけることができると期待されます。

北播磨総合医療センター，愛仁会明石医療センター，兵庫県立はりま姫路総合医療センターはそれぞれ北播磨地域（小野，三木市），東播磨地域（明石市），中播磨地域（姫路市）という神戸市西地域と隣接した診療圏の中核病院で，甲南会甲南医療センター，兵庫県立尼崎総合医療センター，大阪府済生会中津病院，大阪府済生会野江病院，関西電力病院，田附興風会北野病院，大阪赤十字病院，京都桂病院，宇治徳洲会病院はそれぞれの地域の中核病院です。いずれも地域の救急医療・高度医療を担っており，異なる地域で，違う視点から地域医療を経験することができ，臨床能力をさらに深める

ことができます。

倫生会みどり病院は神戸市西区の地域密着型病院として地域医療の最前線で活躍しており、近年では心臓弁膜症を中心とした循環器疾患診療に力を注いでいます。神戸市立西神戸医療センターとは20年以上にわたって病病連携を密にとっており、年間100名を超える紹介等（2015年度：紹介30件、逆紹介93件）を行なうとともに、定期的に合同研究会を開催しています。神戸市西区での地域医療の最前線、神戸市立西神戸医療センターとの患者紹介・逆紹介の現状を体験するには最適の病院です。

伯鳳会赤穂中央病院は兵庫県赤穂市の地域密着型病院で、西播磨地域における中核病院です。神戸市立西神戸医療センターとは距離的に離れていますが、同センターの医療圏である神戸西地域とは異なる地域性、人口分布、人口密度であり、多様な症例、患者対応についての経験を期待できること、また同院には神戸市立西神戸医療センターでの勤務経験のある内科医師が3名（副院長、血液内科、消化器内科）在籍しているため、異なる地域医療圏での研修をスムーズに行えると期待しています。丹後中央病院は京都府京丹後市の地域密着病院です。

平戸市民病院は長崎県平戸市の地域密着病院です。以前より神戸市立西神戸医療センターの初期研修における地域医療研修施設として交流があり、離島での診療を含め、地域に密着した医療を経験できます。

## 専門研修施設群の地理的範囲【整備基準26】

西神戸医療センター内科専門研修施設群は神戸市西地域医療圏と近隣医療圏にある施設を中心に構成されています。兵庫県内の病院の多くは神戸市立西神戸医療センターの宿舎から通勤可能です。兵庫県外の病院での研修中には宿舎が必要になりますので、研修先の病院と相談の上で各自で宿舎を確保していただきます。

表 1. 各研修施設の概要

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	神戸市立 西神戸医療センター	475	193	9	19	17	5
連携施設	神戸市立医療センター 中央市民病院	768	241	10	41	44	19
連携施設	神戸市立医療センター 西市民病院	358	154	10	18	23	14
連携施設	京都大学医学部 附属病院	1141	309	10	114	123	13
連携施設	神戸大学医学部 附属病院	934	254	11	86	66	14
連携施設	札幌医科大学 附属病院	922	235	8	70	53	5
連携施設	日本赤十字社 和歌山医療センター	700	243	10	27	24	6
連携施設	国立病院機構 神戸医療センター	304	122	7	16	10	5
連携施設	北播磨 総合医療センター	450	150	9	28	27	9
連携施設	愛仁会 明石医療センター	382	215	6	19	18	8
連携施設	兵庫県立はりま姫路 総合医療センター	736	305	11	36	40	4
連携施設	甲南会 甲南医療センター	461	305	9	24	22	7
連携施設	兵庫県立尼崎 総合医療センター	730	286	16	49	28	15
連携施設	大阪府済生会中津病院	570	308	10	37	22	4
連携施設	大阪府済生会野江病院	400	185	9	25	15	3
連携施設	関西電力病院	400	168	10	24	21	6
連携施設	田附興風会北野病院	685	305	9	37	37	2
連携施設	大阪赤十字病院	909	311	9	35	23	18
連携施設	京都桂病院	557	307	11	25	28	12
連携施設	宇治徳洲会病院	479	185	10	11	11	3
連携施設	倫生会みどり病院	108	54	10	4	2	0
連携施設	伯鳳会赤穂中央病院	265	40	5	3	3	1
連携施設	丹後中央病院	306	107	7	2	5	0
連携施設	平戸市民病院	87	15	1	1	2	0



表2. 各内科専門研修施設の内科13領域の研修の可能性

各研修施設での内科13領域における診療経験の研修可能性を3段階(○, △, ×)に評価しました。

○:研修できる, △:時に経験できる, ×:ほとんど経験できない

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
神戸市立 西神戸医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立医療センター 中央市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立医療センター 西市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
京都大学医学部 附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸大学医学部 附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
札幌医科大学 附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
関西医科大学 附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本赤十字社 和歌山医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立病院機構 神戸医療センター 北播磨 総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
愛仁会 明石医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
兵庫県立はりま姫路 総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
甲南会 甲南医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立尼崎 総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪府済生会中津病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪府済生会野江病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○
関西電力病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
田附興風会北野病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
京都桂病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○
宇治徳洲会病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
倫生会 みどり病院	○	○	○	△	△	○	△	×	×	×	○	△	○
伯鳳会 赤穂中央病院	○	○	○	△	△	△	○	○	△	○	○	○	○
丹後中央病院	○	○	○	△	×	×	△	△	△	△	×	×	○
平戸市民病院	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○

## 1) 専門研修基幹施設

### 神戸市立西神戸医療センター

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<p>①研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ②地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付正規職員として労務環境が保障されています。 ③メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当職員・リエゾン担当看護師）があります。 ④ハラスメント委員会が機構内に整備されています。 ⑤女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ⑥敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>①指導医は 19 名在籍しています。 ②内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）、プログラム管理者（診療部長））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ③基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と学術研修部を設置します。 ④医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2022 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑤研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催（2023 年度：年 2 回開催予定）し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑥CPC を定期的で開催（2021 年度実績 9 回）し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑦地域参加型のカンファレンス（2022 年度実績 29 回）を定期的で開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑧プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2021 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑨日本専門医機構による施設実地調査に学術研修部が対応します</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<p>①カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ②70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記） ③専門研修に必要な剖検（2018 年度 14 体、2019 年度 12 体、2020 年度 6 体、2021 年度 5 体）を行っています</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<p>①臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています ②倫理委員会を設置し定期的で開催（2022 年度実施 2 回）しています ③治験委員会を設置し定期的に受託研究審査会を開催（書面開催・2022 年度実績 26 回）しています ④日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 4 演題）をしています</p>
<p>指導責任者</p>	<p>永澤 浩志 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸市立西神戸医療センターは神戸市西区を中心とした西地域の中心的な急性期病院であり、地域に密着した救急医療と、がん診療連携拠点病院としての高度医療を 2 本柱としています。コモンディーズから重症疾患まで、幅広い症例を経験できます。結核病棟（45 床）を有しており、結核症例も豊富です。 また、当院は平成 6 年の開院当初より地域医療室を開設しており、一貫して地域連携を推進しています。さまざまな病診、病病連携について経験可能です。</p>
<p>指導医数 （常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 2 名、日本循環器学会循環器</p>

	専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、ほか
外来・入院患者数 （2019 年度実績）	外来患者 11,728 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月 延べ患者数） 入院患者 4,703 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月 延べ患者数） 2021 年度実績
病床	一般：423 床，結核：45 床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院，日本消化器病学会認定施設，日本消化器内視鏡学会指導施設，日本循環器学会認定循環器専門医研修施設，日本呼吸器学会認定施設，日本糖尿病学会認定教育施設，日本神経学会教育施設，日本腎臓学会研修施設，日本血液学会認定血液研修施設，日本がん治療認定医機構認定研修施設など

## 2) 専門研修連携施設

### 1. 神戸市立医療センター中央市民病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・神戸市立医療センター中央市民病院の任期付正規職員として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対応出来るよう相談窓口（市役所）を設置しています。</li> <li>・ハラスメントの防止及び排除並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合、迅速かつ適切な問題解決を図るためハラスメント相談窓口及びハラスメント防止対策委員会を設置しています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務出来るように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は 41 名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（医療安全：6 回、感染対策：2 回、医療倫理：1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的開催（2022 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（腹部超音波カンファレンス、びまん性肺疾患勉強会、がんオープンカンファレンス、緩和ケアセミナー など 2022 年度実績 57 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。</li> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 16 体、2021 年度実績 23 体、2022 年度実績 19 体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室、学術支援センターなどを設置しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。</li> <li>・臨床研究推進センターを設置しています。</li> <li>・定期的 IRB、受託研究審査会を開催（2022 年度実績各 12 回）しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 8 演題）をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>富井 啓介 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の診療体制の大きな特徴は、北米型 ER（救命救急室）、つまり 24 時間・365 日を通して救急患者を受け入れ、ER 専任医によって全ての科の診断および初期治療を行い、必要に応じて各専門科にコンサルトするというシステムにあります。年間の救急外来患者数は 26,000 人以上、救急車搬入患者数も 8,700 人を超え、独立した救急部と各科スタッフ、初期研修医、専攻医が緊密に連携して、軽傷から重症までのあらゆる救急患者に対応しています。この中で専攻医は初期研修から各科の専門的診療に至る過程で重要な役割をはたしており、皆さんがどの診療科を選択しても、大学病院など 3 次救急に</p>

	特化した施設では得られない、医療の最前線の広範な経験を重ねることができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 41 名, 日本内科学会総合内科専門医 44 名, 日本消化器病学会消化器専門医 10 名, 日本アレルギー学会専門医 3 名, 日本循環器学会循環器専門医 12 名, 日本リウマチ学会リウマチ専門医 6 名, 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名, 日本感染症学会専門医 4 名, 日本腎臓学会専門医 4 名, 日本糖尿病学会専門医 4 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名, 日本老年医学会老年病専門医 1 名, 日本血液学会血液専門医 9 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 7 名, 日本神経学会神経内科専門医 9 名, 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 5 名, 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 5 名, 日本救急医学会救急科専門医 14 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 33,982 名 (1 ヶ月平均) 2022 年度 入院患者 18,914 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム基幹施設, 日本老年医学会認定施設, 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設, 日本心血管インターベンション学会認定研修施設, 日本神経学会専門医制度教育施設, 日本脳卒中学会認定研修教育病院, 日本脳神経血管内治療学会指定研修施設, 呼吸器専門研修プログラム基幹施設, 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設, 日本消化器病学会専門医制度認定施設, 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設, 日本糖尿病学会認定教育施設, 日本甲状腺学会認定専門医施設, 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設, 日本腎臓学会認定研修施設, 日本透析医学会専門医制度認定施設, 日本血液学会認定血液研修施設, 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設, 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設, 日本感染症学会研修施設, 日本環境感染学会教育施設, 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士実地修練認定教育施設, 日本消化管学会胃腸科指導施設, 日本禁煙学会教育施設, 日本がん治療認定医機構研修施設, 日本臨床腫瘍内科学会認定研修施設, 日本肝臓学会認定施設, 日本不整脈心電学会認定不整脈専門研修施設, 救急科専門医指定施設 など

## 2. 神戸市立医療センター西市民病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<p>①研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ②地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付職員として労務環境が保障されています。 ③メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当職員・リエゾン担当看護師）があります。 ④ハラスメント委員会が機構内に整備されています。 ⑤女性専攻医が安心して勤務できるように、院内保育所、病児保育室、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ⑥利用可能な院内保育所があります。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>①指導医は 18 名在籍しています（下記）。 ②内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ③基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します ④医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2022 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑤研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑥CPC を定期的で開催（2022 年度実績 11 回）し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑦地域参加型のカンファレンス（2022 年度実績 18 回）を定期的で開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑧プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑨日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します ⑩特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の西市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<p>①カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ②70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記） ③専門研修に必要な剖検（2020 年度 11 体、2021 年度 14 体、2022 年度 12 体）を行っています</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<p>①臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています ②倫理委員会、倫理問題検討委員会を設置し定期的で開催しています ③治験委員会を設置し定期的に受託研究審査会を開催（2022 年度実績 12 回）しています ④日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 6 演題）をしています</p>
<p>指導責任者</p>	<p>山下 幸政 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県神戸医療圏西部の中心的な急性期病院である神戸市立医療センター西市民病院を基幹施設として、兵庫県神戸市医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て兵庫県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として兵庫県全域を支える内科専門医の育成を行います。主担当医として、救急対応、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 （常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本肝臓学会専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本腎臓学会腎臓専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日</p>

	本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,562 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 4,210 名 (1 ヶ月平均延数)
病床	358 床 (内科系 154 床)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会関連施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本神経学会準教育関連施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本感染症学会認定研修施設など

### 3. 京都大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・医員室（院内 LAN 環境完備）・仮眠室有</li> <li>・専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。</li> <li>・ハラスメント委員会が整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 114 名在籍しています。（2021 年度）</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC（2021 年度 11 回 開催）、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会を含め 2021 年度は計 47 題の学会発表をしています。
指導責任者	柳田素子（腎臓内科教授） 【内科専攻医へのメッセージ】 京都大学病院は地域医療と密接に連携した高水準の診療と未来の医療を創造する臨床研究に力を注いでいます。本プログラムの目的は初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が地域の協力病院と連携して、総合力にも専門性にも優れた内科医を養成することです。患者中心で質の高い安全な医療を実現するとともに、新しい医療の開発と実践を通して社会に貢献し、専門家の使命と責任を自覚する志高く人間性豊かな医師を育成します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 114 名、日本内科学会総合内科専門医 123 名、日本消化器病学会消化器専門医 38 名、日本肝臓学会専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 22 名、日本内分泌学会専門医 20 名、日本糖尿病学会専門医 27 名、日本腎臓病学会専門医 21 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 35 名、日本血液学会血液専門医 25 名、日本神経学会神経内科専門医 48 名、日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、日本リウマチ学会専門医 16 名、日本感染症学会専門医 10 名 ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者 279,649 名（2021 年度延べ数） 内科系入院患者 96,983 名（2021 年度延べ数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。



<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>(社) 日本血液学会認定専門研修認定施設、(財) 日本骨髄バンク (社) 日本造血・免疫細胞療法学会非血縁者間骨髄採取認定施設、(財) 日本骨髄バンク非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設、(社) 日本造血・免疫細胞療法学会非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科、(財) 日本さい帯血バンクネットワークさい帯血移植認定施設、(公) 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、(社) 日本 HTLV-1 学会登録医療機関、(社) 日本内分泌学会認定教育施設、(社) 日本糖尿病学会認定教育施設、(社) 日本甲状腺学会認定専門医施設、(社) 日本肥満学会認定肥満症専門病院、(特) 日本高血圧学会専門医認定施設、(社) 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設、(社) 日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設、(社) 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、関連10学会構成ステントグラフト実施基準管理委員会胸部大動脈瘤ステントグラフト実施施設、関連10学会構成ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設、浅大腿動脈ステントグラフト実施施設、(社) 日本心血管インターベーション治療学会研修施設、(社) 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、ASD 閉鎖栓を用いた ASD 閉鎖術施行施設、(社) 日本成人先天性心疾患専門医総合修練施設、(社) 日本動脈硬化学会専門医教育病院、(社) 日本磁気共鳴医学会 MRI 対応植込み型不整脈治療デバイス患者のMRI 検査実施施設、(社) 日本不整脈心電図学会 経静脈的リード抜去術認定施設、卵円孔開存閉鎖術実施施設、左心耳閉鎖システム認定施設、トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するピンダケル導入施設、経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設、(財) 日本消化器病学会認定施設、(社) 日本消化器内視鏡学会指導施設、(社) 日本肝臓学会認定施設、(社) 日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度基幹施設、(特) 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、(社) 日本アレルギー学会認定教育施設 (呼吸器内科)、(社) 日本リウマチ学会教育施設、(社) 日本救急医学会救急科専門医指定施設 (093)、(社) 日本救急医学会指導医指定施設、(社) 日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設、(社) 日本神経学会認定教育施設、(社) 日本てんかん学会研修施設、(社) 日本てんかん学会認定包括的てんかん専門医療施設、(社) 日本脳卒中学会研修教育病院、(社) 日本脳卒中学会一次脳卒中センター、(社) 日本認知症学会教育施設、(社) 日本老年医学会認定施設、(社) 日本東洋医学会認定研修施設、(社) 日本臨床神経生理学会認定施設、(社) 日本神経病理学会認定施設、(社) 日本透析医学会専門医制度認定施設、(社) 日本腎臓学会研修施設、(社) 日本アフレスシス学会認定施設、(特) 日本急性血液浄化学会認定指定施設、(有) 日本がん治療認定医機構認定研修施設、(特) 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、(社) 日本消化管学会胃腸科指導施設</p>
-------------------------	---

#### 4. 神戸大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。</li> <li>・医学部附属病院研修中は、医員として労務環境が保障されます。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があり、ハラスメント委員会も整備されています。</li> <li>・女性専攻医のための更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり, 病院職員としての利用が可能です(但し, 数に制限あることと事前に申請が必要です)。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 86 名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置し, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として年 2 回開催し, 専攻医にも受講を義務付けます。</li> <li>・CPC を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で約 25 演題の学会発表をしています。
指導責任者	三枝 淳 (腎臓・免疫内科学分野 免疫内科学部門) 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸大学医学部附属病院内科系診療科は、連携する関連病院と協力して、内科医の人材育成や地域医療の維持・充実に向けて活動を行ってまいります。医療安全を重視し、患者本位の標準的かつ全人的な医療サービスが提供でき、医学の進歩にも貢献できる責任感のある医師を育成することを目指します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医86名、日本内科学会総合内科専門医66名 日本消化器病学会消化器専門医59名、日本肝臓学会肝臓専門医23名、日本循環器学会循環器専門医47名、日本内分泌学会専門医18名、日本糖尿病学会専門医33名、日本腎臓病学会専門医15名、日本呼吸器学会呼吸器専門医13名、日本血液学会血液専門医20名、日本神経学会神経内科専門医26名、日本アレルギー学会専門医(内科)3名、日本リウマチ学会専門医19名、日本感染症学会専門医6名、日本救急医学会救急科専門医10名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 延べ数 12,538 名 実数 2,363 名 (内科のみの1ヶ月平均) 入院患者 延べ数 6,623 名 実数 536 名 (内科のみの1ヶ月平均)
病床	934 床
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができますが、大学病院での研修は短期間なので、希望により研修科を選択いただけます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが、内科医にとって必須である地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。大学病院ならではの専門・最先端医療も是非経験いただきたいと考えています。

<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会総合内科専門医認定教育施設、日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定病院、日本消化器病学会消化器病専門医認定施設、日本循環器学会循環器専門医研修、日本呼吸器学会呼吸器専門医認定施設、日本血液学会血液専門医研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設、日本糖尿病学会糖尿病専門医認定教育施設、日本腎臓学会腎臓専門医研修施設、日本肝臓学会肝臓専門医認定施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本感染症学会感染症専門医研修施設、日本老年医学会老年病専門医認定施設、日本神経学会神経内科専門医教育施設、日本リウマチ学会リウマチ専門医教育施設、日本集中治療医学会集中治療専門医専門医研修施設</p>
-------------------------	--

## 5. 国立病院機構神戸医療センター

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・神戸医療センター期間医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署(事務部管理課担当)があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が神戸医療センターに整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室(予備の当直室を使用可、シャワーブース有)、当直室(シャワーブース有)が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は 16 名在籍しています。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2021 年度実績 8 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的で開催(2021 年度実績 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(毎年 1 回開催)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。</li> <li>・特別連携施設(名谷病院)の専門研修では、電話や週 1 回の神戸医療センターでの面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 56 以上の疾患群)について研修できます。</li> <li>・専門研修に必要な剖検(2021 年度 5 体)を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的で開催(2021 年度実績 6 回)しています。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2021 年度実績 12 回)しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2021 年度 5 演題)をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>三輪陽一</p> <p><b>【内科専攻医へのメッセージ】</b></p> <p>神戸医療センターは、兵庫県神戸市須磨区医療圏の中心的な急性期病院であり、連携施設として神戸大学医学部附属病院、国立病院機構兵庫中央病院、兵庫県立がんセンター、神戸市立医療センター西市民病院、神戸市立西神戸医療センター、社会医療法人愛仁会明石医療センター、社会医療法人愛仁会高槻病院、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、神戸赤十字病院(2024 年度より予定)、日本生命病院(2024 年度より予定)、特別連携施設として名谷病院と施設群を形成して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医育成を目指します。</p> <p>当センターは、総合病院としての機能を果たしながら、昭和 60 年から 38 年の長きにわたり厚生省・臨床研修指定病院として多くの研修医を育ててきた実績のある病院であり、内科学会教育病院としての資格を有しています。Common</p>

	disease から珍しい病気まで多くの症例を経験でき、最新の専門的医療・実技を習得してもらえる体制をとっています。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成に努めます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医16名、日本内科学会総合内科専門医10名 日本消化器病学会消化器専門医7名、日本循環器学会循環器専門医6名、 日本糖尿病学会研修指導医1名、日本糖尿病学会専門医1名、 日本呼吸器学会呼吸器指導医1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名 日本肝臓学会肝臓専門医3名、日本消化器内視鏡学会専門医5名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 9,087名(1ヶ月平均) 入院患者 168.6名/日(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本糖尿病学会教育関連施設認定施設など

## 6. 北播磨総合医療センター

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・北播磨総合医療センター非常勤医師（常勤の嘱託職員）として労務環境が保障されています。</li> <li>・ハラスメント防止委員会が設置されており、各種ハラスメントに対処しています。</li> <li>・メンタルストレスについては、経営管理課が窓口となり、院内に臨床心理士及び産業医を配置し対処しています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー一室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、24時間利用可能です。</li> <li>・宿舎は、病院敷地内宿舎若しくは三木市・小野市エリアで、単身用借上宿舎の提供又は住居手当による対応を予定しています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>指導医は 28 名在籍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）（総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設に研修する専攻医の専門研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2021 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的開催（2020 年度実績 8 回、2021 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（北播磨総合内科セミナー、北播磨消化器循環器連携懇話会、北播磨病診連携講演会、北播磨 Vascular Meeting など）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（毎年度 1 回開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室などの環境を整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を行っています。</li> <li>・学術集会への参加を奨励し、参加費・出張旅費を支給しています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>安友 佳朗</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>北播磨総合医療センターは、「患者にとって医療機能が充実し、安心して医療を受けられること」また「医師、技師、看護師などの医療人にとって人材育成能力が高く、やりがいがあり、働き続けられる環境であること」など、「患者にとっても、医療人にとっても魅力ある病院となること」を目指して 2013 年 10 月に開院した病院です。</p> <p>教育熱心な指導医のもと内科全般の担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までの診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成を病院全体で支えます。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医28名、日本内科学会総合内科専門医27名、日本消化器病学会消化器病専門医9名、日本循環器学会循環器専門医10名、日本糖尿病学会専門医3名、日本腎臓学会腎臓専門医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医5名、日本血液学会血液専門医3名、日本神経学会神経内科専門医5名、日本リウマチ学会専門医5名、日本内分泌学会専門医2名、日本救急医学会救急科専門医3名、日本感染症学会感染症専門医2名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,056 名 (1 日平均) 入院患者 350 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設 I、日本内分泌学会認定教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本血液学会専門医研修認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本透析医学会教育関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本脳卒中学会研修教育病院、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本脈管学会研修指定施設、日本リウマチ学会リウマチ教育施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本認知症学会専門医制度教育施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設(内科)、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関、日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練機関、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、経カテーテル心筋冷凍焼灼術認定施設、日本脳卒中学会一次脳卒中センター、日本脳卒中学会一次脳卒中センターコア施設、日本アフレスシス学会認定施設、輸血機能評価認定制度(I&A)認証施設、日本膵臓学会認定指導施設、放射線科専門医総合修練機関、日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設、画像診断管理認証施設、日本感染症学会研修施設、日本血栓止血学会認定医制度認定施設、日本禁煙学会教育施設、日本脳ドック学会施設認定、日本緩和医療学会認定研修施設、日本放射線腫瘍学会認定施設、日本核医学専門教育病院、日本血液学会専門教育施設(小児科)

## 7. 愛仁会明石医療センター

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・明石医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署及びハラスメント委員会として労働安全衛生委員会が病院内に設置されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・院内の近くに院内保育所があり、利用可能です。 (申請の時に説明・書類手続きがある為必ず事前にご連絡をお願い致します)</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会指導医は 20 名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2021 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的開催(2021 年度 5 回、2020 年度件数 4 回、)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス(2021 年度実績 感染防止対策地域カンファレンス 2 回、地域医療連携の会 1 回等)を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定しています。</p> <p>レジデントのための臨床研究ワークショップを定期的に行い臨床研究について勉強する機会を設けています。</p> <p>症例報告や臨床研究の学会報告や論文作成も活発に行い、医学統計専門家や外国人講師による英文校正の指導を受けることができます。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>木南 佐織</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>明石医療センターは「患者さんを中心に、その期待に応える医療を行い、地域との連携を密にして、社会に貢献します」という理念のもと、明石市の中心的な急性期病院として、地域に根差した医療を行っています。専門内科(呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科)および総合内科の指導医は充足しており、サブスペシャリティの研修はもちろんのこと、総合内科医として幅広い研修が可能です。2019 年度から救急科専門医が赴任し、コモディージェーズから高度急性期医療まで、さらに幅広い診療が可能となりました。外科系の診療科は、心臓血管外科、外科、呼吸器外科、整形外科、産婦人科が活発に診療しており垣根の低い連携が可能です。また症例報告や臨床研究にも力を入れており、学会発表・論文作成の指導体制も整っており、毎年研修医・専攻医の英語論文がアクセプトされています。症例の少ない疾患に関しては、それらの症例を経験できるように考慮した関連病院での研修が可能です。3 年間で 13 領域、70 疾患群の症例を十分に経験することができます。</p>



指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 18 名、 日本循環器学会専門医 5 名、日本呼吸器学会専門医 6 名、 日本消化器病学会専門医 12 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名、 日本呼吸器内視鏡学会専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 3 名、 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 2 名、日本感染症学会専門医 3 名、 日本腎臓学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本内分泌代謝科専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,597 名 (内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 6,348 名 (内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数)
病床	一般 : 382 床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本透析医学会専門医教育関連施設、社団法人日本感染症学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、I M P E L L A 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設など

## 8. 倫生会みどり病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・みどり病院の常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当職員）があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合内科専門医が1名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績 医療倫理 1回（複数回開催）、医療安全2回（各複数回開催）、感染対策2回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）に定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 病診、病病連携カンファレンス3回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 0 演題）を予定しています
指導責任者	室生 卓 【内科専攻医へのメッセージ】 みどり病院は急性期一般病床 108 床の小さな病院です。循環器、消化器、膠原病の専門医等のもとに、救急医療、在宅医療、人工透析、リハビリテーションなど地域の医療ニーズに応えるべく多くのことに取り組んでいます。西神戸医療センターを基幹病院とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会認定内科医 4 名 日本内科学会総合内科専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本消化器病学会専門医 1 名 日本胸部外科学会指導医 1 名 心臓血管外科指導医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 3,514 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 2,656 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

## 9. 伯鳳会赤穂中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・医療法人伯鳳会赤穂中央病院常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・病院近くに院内保育所があり、利用可能です。</li> <li>・病院周辺に医師官舎があります。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 3 名在籍しています（下記）。</li> <li>・専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療安全、感染対策など）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（オープンカンファレンス、千種川カンファレンス等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会などで年間に計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	<p>矢部 博樹</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>赤穂中央病院は西播磨地域における中核病院であり、連携施設としてプライマリケアから専門的医療までを研修できます。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p> <p>当病院はケアミックス病院であり、急性期のみならず亜急性期から在宅診療までを含め、幅広く経験することができます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 3 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 4 名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	総外来患者 43,228 名（実数）2022 年 総入院患者 82,092 名（実数）2022 年
病床	265 床
経験できる疾患群	13 領域のうち、9 領域 66 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域における急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本循環器学会認定研修施設、日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設、日本超音波医学会認定研修施設 など

## 10. 日本赤十字社和歌山医療センター

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・日本赤十字社和歌山医療センター常勤嘱託医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。</li> <li>・ハラスメントに適切に対処する、苦情・相談体制が整っています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・隣接地に院内保育所、センター内に病児保育があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は 27 名在籍しています。（2023 年 4 月現在）。</li> <li>・内科専門医研修プログラム管理委員会が設置されており、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門医研修委員会を設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2022 年度開催実績 2 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・その他、事務対応、施設実地調査は業務部研修課が対応します。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 8 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2020 年度 10 体、2021 年度 14 体、2022 年度 6 体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室（24 時間利用可）、統計解析ソフト JMPなどを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2020 年度実績 6 演題）をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>豊福 守（循環器内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 日本赤十字社和歌山医療センターは、和歌山県和歌山医療圏の中心的な急性期病院であり、三次医療圏・近隣医療圏にある連携・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数（常勤医）</p>	<p>27 名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>内科の延外来患者 173,787 名 内科の新入院患者 8,316 名（2021 年度）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本肝臓学会関連施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本神経学会専門医制度准教育関連施設、日本感染症学会認定研修施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設、非血縁者間骨髄採取・移植認定施設、非血縁者間末梢血幹細胞移植・採取認定施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本救急医学会専門医指定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本認知症学会教育施設、日本肥満症学会認定肥満症専門病院、日本心身医学会研修施設 ほか

## 11. 大阪府済生会中津病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度研修指定病院（基幹型・協力型）です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・済生会中津病院専攻医として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が院内に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は 37 名在籍しています。</li> <li>・研修委員会：各内科系診療科の代表・臨床教育部部長などで構成され、基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。</li> <li>・研修委員会と臨床教育部で専攻医の研修状況を管理し、プログラムに沿った研修ができるよう調整します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・各診療科が参加している地域参加型のカンファレンスに専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2020 年度 9 体、2021 年度 4 体、2022 年度 6 体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室を整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、必要時に開催（2022 年度実績 2 回）しています。</li> <li>・治験審査委員会と臨床研究倫理審査委員会を設置し、審査会を開催（2022 年度実績 12 回、4 回）しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>高田 俊宏</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大阪府済生会中津病院は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどからなる済生会中津医療福祉センターの中核をなす 570 床の大型総合病院であり、平成 28 年に創立 100 周年を迎えました。当院は大阪市医療圏の北部地域の中心的な急性期病院として、地域の病診・病病連携の中核をなし、救急診療に力を注ぐ一方、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟も併せ持っており、急性期から慢性期まで幅広い疾患の診療経験ができます。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 37 名、日本内科学会総合内科専門医 24 名、日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 4 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本老年医学会老年病専門医 1 名ほか</p>

外来・入院患者数 (内科領域年間)	外来患者 (内科) 13,461名 (1ヶ月平均) 入院患者 (内科) 579名 (1ヶ月平均)
病床	570床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度内科専門医教育病院、日本呼吸器学会認定医制度認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション学会認定研修施設、日本心血管カテーテル治療学会、日本消化器病学会認定医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本神経学会認定医制度教育施設、日本アレルギー学会認定準教育施設、日本血液学会認定研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本肥満学会認定肥満症専門病院、日本感染症学会認定研修施設、日本老年医学会認定施設、日本認知症学会認定施設 など

## 12. 札幌医科大学附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・診療医として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が札幌医科大学に整備されています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 70 名在籍しています。</li> <li>・内科専門研修プログラム研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療に係る安全管理のための職員研修を定期的に開催しています。（令和 4 年度実績 医療安全講演会 2 回、トピックス研修会 6 回、BLS-AED・ICLS 研修会 2 回）</li> <li>※BLS-AED は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、6 回の中止</li> <li>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講のための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域全 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	<p>我妻 康平（研修委員長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>本院は、医科系大学附属の総合病院として 29 診療科、932 床の施設を有し、北海道の医療において中心的な役割を担っています。</p> <p>2002 年に北海道内初となる高度救命救急センターが設立されて以降、遠隔地の多い北海道内各地から救急患者や災害時の受け入れを行っています。</p> <p>内科専攻医の皆様には、豊富な経験を持つ指導医による丁寧な指導のもと、専門性の高い高度医療チームの一員として診療に参加いただき、また医学教育および基礎研究・臨床研究の一端をご覧ください。</p> <p>専門領域での更なる活躍を目指して、ぜひ当院で一緒に研修していきましょう。</p>
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 70 名、日本内科学会総合内科専門医 53 名、日本消化器病学会消化器専門医 38 名、日本循環器学会循環器専門医 22 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 21 名、日本血液学会血液専門医 11 名、日本神経学会神経内科専門医 14 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数 （内科領域年間）	<p>全体外来患者数 18,132 名/年      全体入院患者数 17,930 名/年</p> <p>内科外来患者数 3,411 名/年      内科入院患者数 5,833 名/年（令和 4 年度）</p>
病床	一般：869 床、精神：32 床（令和 4 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。大学病院の特性上、困難症例や集学的治療についても経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本アレルギー学会認定施設、日本核医学会認定施設、日本感染症学会認定施設、日本がん治療認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本緩和医療学会認定施設、日本血液学会認定施設、日本高血圧学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本循環器学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定施設、日本神経学会認定施設、日本腎臓学会認定施設、日本心血管インターベ



	ンション治療学会認定施設，日本超音波医学会認定施設，日本透析医学会認定施設，日本糖尿病学会認定施設，日本認知症学会認定施設，日本脳卒中学会認定施設，日本肥満学会認定施設，日本不整脈心電図学会認定施設，日本老年医学会認定施設，日本神経学会認定施設，日本リウマチ学会認定施設，日本臨床腫瘍学会認定施設，日本老年医学会認定施設など
--	--

### 13. 大阪府済生会野江病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・済生会野江病院専攻医として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士 2 名在籍）があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が院内に設置されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、宿直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は 25 名在籍しています。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者、各内科系診療科部長などで構成）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2022 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的開催（2022 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 56 以上の疾患群）について研修できます。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2022 年度 3 件、2021 年度 3 件、2020 年度 4 件、2019 年度実績 4 件）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。</li> <li>・治験管理委員会、治験管理室を設置し、定期的審査会を開催しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>羽生泰樹（プログラム統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪府済生会野江病院は大阪市東部医療圏の中心的な急性期病院であり、当院および連携施設での研修により、内科専門医として必要十分な症例の経験が可能です。内科学会専門医受験に必要な研修内容を確保したうえで、subspeciality 等、将来の進路や個人の希望を考慮したフレキシブルなプログラムとなっています。内科系 subspecialist、内科系救急医療の専門医、病院における generalist、地域のかかりつけ医等、様々な進路が考えられますが、それらの進路へのスムーズな移行に配慮するとともに、いずれにも求められる患者本位の全人的医療を実践する基礎となる研修を意図しています。多くの専攻医の皆さんと一緒に、楽しく学べることを楽しみにしています。</p>
<p>指導医数 （常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器病専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血</p>

	液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者 7,576 名 (1 ヶ月平均) 内科系入院患者 364 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本血液学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設、日本高血圧学会認定施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本認知症学会専門医教育施設、日本呼吸器学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 稼働施設、日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設、日本栄養療法推進協議会認定 NST 稼働施設、日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療養士認定教育施設など

## 14. 関西電力病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・関西電力病院非常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（関西電力株式会社内に設置）があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、宿直室が整備されています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は 24 名在籍しています。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修部を設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に行い（年 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：西部大阪肝疾患地域連携会・市民公開講座、消化器センター市民講座、関西電力病院レントゲン読影会、関西電力病院 糖尿病フォーラム、Kansai Diabetes Network Seminar、北大阪生活習慣病病診連携をすすめる会、地域の糖尿病診療を考える会、KDF 研究会、糖尿病フォーラム、中之島循環器フォーラム）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修部が対応します。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・70 疾患群のうち 62 疾患群について研修できます。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2020 年度 12 体、2021 年度 3 体、2022 年度 6 体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室、インターネット環境などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に行っています。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的に行っています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を行っています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>濱野利明</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>関西電力病院は 400 床を有する通常の中隔病院であり、関西電力関係者は家族も含めて全外来患者数の約 3% です。病院は 2013 年新築で、堂島川に面し、ビル群に囲まれた美しい都会的な環境にある一方、周辺には古い下町の面影を残す地域もあります。</p> <p>内科には循環器内科、血液内科、消化器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、腎臓内科、呼吸器内科、脳神経内科、腫瘍内科、リウマチ・膠原病内科の 9 専門家および緩和医療科があり、充実したスタッフと共に最新設備を用いた研修を受けることができます。中規模病院であるため、診療科間の垣根が低くコンサルトが容易にできる良い伝統があります。</p> <p>当院のプログラムでは、できるだけ専攻医の希望に沿ったローテートを予定しており、指導医は、知識、技術の指導を細やかに行うとともに、キャリアプランなど様々な相談に乗ります。各専門科で早期に十分な症例数を経験できるた</p>

	<p>め、広範囲は subspecialty を目指す研修も可能です。</p> <p>連携病院は京都大学、大阪市立大学、北野病院、大阪赤十字病院など大規模病院と相互連携している一方、守口敬仁会病院、丹後中央病院とも連携しており、最新の医療から地域医療まで広い範囲の研修が可能です。</p> <p>病院には関西電力医学研究科が併設されており、ヒトサンプルを用いた実験を通じて、臨床に根ざした医学研究が可能です。</p> <p>総合性と専門性、二兎を追ってみませんか。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 24 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名、日本循環器学会専門医 9 名、日本消化器病学会専門医 6 名、日本消化器内視鏡学会専門医 6 名、日本肝臓学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 8 名、日本病態栄養学会専門医 6 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本血液学会専門医 5 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本透析医学会専門医 3 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 3 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名、日本神経学会専門医 6 名、日本老年医学会専門医 2 名 ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 812 名 (1 日平均) 入院患者 312 名 (1 日平均)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院、日本栄養療法推進協議会 N S T 稼動施設認定、日本肝臓学会専門医施設認定、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本気管食道科学会研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本血液学会血液研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本腎臓学会研修施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本認知症学会教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本リウマチ学会認定教育施設、日本臨床神経生理学会認定教育施設 (脳波分野、筋電図・神経伝導分野) など</p>

## 15. 兵庫県立はりま姫路総合医療センター

<p>1) 専攻医の環境 【整備基準 24】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・兵庫県立病院会計年度任用職員として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>・ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>2) 専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は 36 名在籍しています（下記）</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2022 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的で開催（2021 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（姫路市内科専門研修 Group カンファレンス、はりま健康講座、地域連携カンファレンス、高機能シミュレータ医療研修講座、地域の総合医と専門医を繋ぐプロジェクトなど）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>3) 診療経験の環境 【整備基準 24】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定期的に専門研修が可能です。</li> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2021 年度 4 体）を行っています。</li> </ul>
<p>4) 学術活動の環境 【整備基準 24】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に参加しています。</li> <li>・臨床研究審査委員会を設置し、定期的に参加しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 5 演題）をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>大内 佐智子</p> <p>内科専攻医へのメッセージ</p> <p>兵庫県立はりま姫路総合医療センターは、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であり、可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざします。</p> <p>当院はドクターヘリを擁する救命救急センターを併設しており、救急医療を数多く経験できます。救急科と内科で密接に連携して救急患者の診療に当たっています。</p> <p>すべての内科系専門領域をカバーしており、全分野において研修ができます。</p>

指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 36 名、日本内科学会内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 51 名、日本内科学会総合内科専門医 42 名、日本循環器学会循環器専門医 20 名、日本神経学会脳神経内科専門医 6 名・指導医 4 名、日本糖尿病学会専門医 6 名・指導医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名・指導医 4 名、日本消化器病学会専門医 7 名・指導医 3 名、日本消化器内視鏡学会専門医 7 名・指導医 4 名、日本肝臓学会専門医 1 名・指導医 1 名、日本腎臓学会専門医 2 名・指導医 1 名、日本透析医学会専門医 2 名・指導医 1 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名・指導医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名・指導医 3 名、日本血液学会血液専門医 3 名・指導医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名・指導医 2 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本緩和医療学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	内科系診療科外来患者 6,656 名 内科系診療科入院患者 7,001 名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会認定研修施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本超音波医学超音波専門医研修施設、日本心臓リハビリテーション認定研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、ペースメーカー移植術認定施設、埋込型除細動器移植術認定施設、両心室ペースメーカー移植術認定施設、両心室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術認定施設、経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)認定施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術専門施設、MitraClip 実施施設、WATCHMAN/左心耳閉鎖システム実施認定施設、PFO 閉鎖術実施施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、植込み型 VAD 管理施設、日本神経学会教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設 I、日本内分泌学会認定教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本腎臓学会教育施設、日本透析医学会認定施設、日本呼吸器学会特別連携施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設(連携施設)、日本血液学会研修教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本緩和医療学会認定研修施設、ほか

## 16. 宇治徳洲会病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・医員室（院内 LAN 環境完備）・仮眠室有。</li> <li>・専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。</li> <li>・ハラスメント委員会が整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 11 名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC（2021 年度 12 回開催）、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会を含め 2021 年度は計 3 題の学会発表をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>舛田 一哲 宇治徳洲会病院は地域医療と密接に連携した高水準の診療と未来の医療を創造する臨床研究に力を注いでいます。本プログラムの目的は初期臨床研修終了後に病院の内科系診療科が大学病院・地域の協力病院と連携して、総合力にも専門性にも優れた内科医を養成することです。患者中心で質の高い安全な医療を実現するとともに、新しい医療の開発と実践を通して社会に貢献し、専門家の使命と責任を自覚する志高く人間性豊かな医師を育成します。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本肝臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 14 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数 (年間)</p>	<p>外来患者 179,383 名 入院患者 14,267 名</p>
<p>病床</p>	<p>479 床（うち感染症 6 床）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本外科学会専門医制度修練施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器学会認定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本血液学会血液研修施設 など</p>



## 17. 丹後中央病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研修協力施設</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・丹後中央病院医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>・ハラスメントに関する委員会が丹後中央病院内に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は2名在籍しています。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会、プログラム管理者にて、基幹施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち7分野以上で専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<p>臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 倫理委員会を設置しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>濱田 暁彦 【内科専攻医へのメッセージ】 消化器内科専門医、消化器内視鏡専門医・指導医、呼吸器内科専門医・指導医、アレルギー専門医が在籍しており、消化器内科の診療、各種手技の習得、消化器内視鏡の各種手技（上下部消化管内視鏡、超音波内視鏡、EVL、EMR、消化管および胆道ステント留置術、EUS-FNA、Interventional-EUS、ERCP 関連手技、食堂 ESD、胃 ESD、大腸 ESD 等）の習得が可能です。呼吸器内科・アレルギーの診療・各種手技の習得が可能です。 また田舎の地域に根付いた病院であり、近隣の医院との連携、老建施設との連携、訪問看護ステーションとの連携、訪問診療医との連携を行っています。 消化器内科および呼吸器内科、アレルギー科の専門的な診療を研修しながら、同時に救急、総合診療、循環器、内分泌、血液、感染症の全内科領域の疾患が主担当医として経験でき幅広い経験と知識、技術が身につきます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医2名、日本内科学会総合内科専門医5名、日本消化器病学会消化器専門医3名、日本消化器内視鏡学会専門医3名・指導医2名、日本内科学会認定内科医1名、日本循環器内科学会専門医2名、ICD1名、日本プライマリーケア学会認定医1名、日本胆道学会指導医1名、日本膵臓学会指導医1名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 42,907 名 (内科系) 入院患者 16,985 名 (内科系)</p>
<p>病床</p>	<p>306床 (一般：256床、療養50床)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会新専門医制度研修プログラム連携施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本胆道学会指導施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

## 18. 田附興風会 北野病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報が検索できるデータベース・サービス (UpToDate、Cochrane Library、Clinical key、Medical online、科学技術情報発信・流通総合システム) (J-STAGE)、CiNii (NII学術情報ナビゲータ) 他、多数) が院内のどの端末からも利用できます。</li> <li>・公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院の常勤医師としての勤務環境が保証されています。</li> <li>・院内の職員食堂では250円～480円で日替わり定食・麺類・カレーライス等を提供しており、当直明けには院内のコーヒーショップのモーニングセットを全員に用意します。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるよう休憩室、更衣室、当直室が整備されています。</li> <li>・院内保育所が完備され、小児科病棟では病児保育も利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科指導医は37名在籍しています。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会 (統括責任者、研修委員会委員長 (主任部長) (ともに指導医) にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム委員会と医師卒後教育センターを設置しています。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医にJMECCを義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に医師卒後教育センターが対応します。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野 (少なくとも7分野以上) で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています (上記)。</li> <li>・70疾患群のうちほぼ全疾患群 (少なくとも35以上の疾患群) について研修できます (上記)。</li> <li>・専門研修に必要な剖検を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室を整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的で開催しています。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的な治験審査委員会を開催しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で4演題以上の学会発表をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>塚本 達雄</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>北野病院は連携施設と協同して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院 (初診・入院～退院・通院) まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。</p>
<p>指導医数</p>	<p>日本内科学会指導医16名、日本内科学会総合内科専門医37名、日本消化器病学</p>

(常勤医)	会消化器病専門医10名、日本肝臓学会肝臓専門医7名、日本消化器内視鏡学会専門医9名、日本循環器学会循環器専門医11名、日本糖尿病学会専門医3名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医2名、日本腎臓病学会専門医5名、日本透析医学会専門医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医6名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医3名、日本血液学会血液専門医6名、日本神経学会神経内科専門医7名、日本アレルギー学会専門医（内科）3名、日本リウマチ学会専門医4名、日本感染症学会専門医1名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医4名
外来・入院患者数	外来：1,482.1名（全科1日平均：2022年度実績） 入院：16,696名（全科2022年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本感染症学会研修施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本呼吸器学会専門医制度認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会専門医制度研修施設、日本肝臓学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本消化管学会胃腸科指導施設 など

## 19. 平戸市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	平戸市民病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・初期臨床研修制度の地域研修施設です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・病院に隣接した官舎を利用可能です。 ・当直は自宅での待機が可能なので、女性専攻医が安心して勤務できます。 ・近隣に地域の保育園があります。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群共同のカンファレンスに参加可能です。参加のための時間的余裕と支援を与えます。 ・プライマリケア領域のオンライン勉強会に参加可能です。 ・平戸市医師会主催の勉強会に参加可能です。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科領域の定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・長崎大学医学部、長崎大学病院と連携して学術的な活動を行っています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	中桶了太 【内科専門医へのメッセージ】 平戸市民病院は長崎県北西部の平戸島の中南部地域唯一の入院施設です。初診～入院～退院後の在宅医療まで一貫して携わることができます。また継続的な外来では慢性期の合併症の管理や併発疾患に留意したマネジメントや健康増進のためのヘルプロモーションに携わります。行政や介護施設との連携を学ぶ事ができます。地域の高齢化率は40%で全国平均の20年先の未来の医療の役割を経験することができます。
指導医数(常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 2名
外来・入院患者数	外来患者 169名(1ヶ月平均) 入院患者 一般病床 1,061名 療養病棟 760名 (1ヶ月平均)
病床	一般：48床、地域包括ケア：10床、慢性期：29床、介護医療院：13床
経験できる疾患群	領域は幅広い初期診療を経験できます。疾患を初診から鑑別して診断して治療を行います。 疾患の慢性期には継続的な外来を通して維持、管理、合併症の予防を経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	総合診療専門医研修(基幹施設)

## 20. 兵庫県立尼崎総合医療センター

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>• 研修に必要なメディカルライブラリーとインターネット環境があります。学術情報が検索できるデータベース・サービス (Cochrane, Libraly, ClinicalKey, DynaMed, MEDLINEComplete, Medicalonline, 医中誌webなど) 利用できます。</li> <li>• 当院での研修中は、兵庫県会計年度任用職員として労務環境が保障されています。</li> <li>• メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>• ハラスメント委員会が整備されています。</li> <li>• 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>• 敷地内に院内保育所及び病児・病後児保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 指導医は49名在籍しています (下記)。</li> <li>• 内科専門研修プログラム管理委員会 (統括責任者 (教育部長: 総合内科専門医かつ指導医) にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>• 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置。</li> <li>• 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>• 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>• CPC を定期的に開催 (2020年度実績1回, 2021年度5回, 2022年度4回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>• 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>• プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講 (2020年開催実績1回, 2021年度2回, 2022年度2回) を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>• 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています (上記)。</li> <li>• 70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます (上記)。</li> <li>• 専門研修に必要な剖検 (2020年度実績14体, 2021年度12体, 2022年度15体) を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。</li> <li>• 倫理委員会を設置し、定期的に開催 (2020年度実績3回, 2021年度2回, 2022年度2回) しています。</li> <li>• 治験管理室 (クリニカルリサーチセンター) を設置し、定期的に受託研究審査会を開催 (2020年度実績12回, 2021年度12回, 2022年度12回) しています。</li> <li>• 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表 (2020年度5演題, 2021年8演題, 2022年度9演題) をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>竹岡浩也</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>兵庫県立尼崎総合医療センター (AGMC) は、兵庫県阪神南医療圏の中心的な高度急性期病院です。転居することなく、通勤可能圏内での連携施設研修ができる選択肢があります。研修施設群には十分な症例数があり、専門研</p>

	<p>修1年目と2年目で症例目標は達成できると考えています。</p> <p>当院内科系専門診療科のモットーは、「ジェネラルにも対応できる専門医養成」です。下欄に示すように内科系サブスペシャリティ専門医・指導医を多数擁しております。内科専門医研修でジェネラルをおさえつつ、サブスペシャリティを究めていただきたい。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医49名、日本内科学会総合内科専門医28名、日本消化器病学会消化器専門医9名、日本肝臓学会専門医7名、日本循環器学会循環器専門医16名、日本内分泌学会専門医2名、日本糖尿病学会専門医3名、日本腎臓病学会専門医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医4名、日本血液学会血液専門医4名、日本神経学会神経内科専門医6名、日本リウマチ学会専門医2名、日本老年学会専門医1名、日本救急医学会救急科専門医3名 ほか</p> <p>※内科系診療科のみ</p>
外来・入院患者数	<p>外来延患者 14,626 名 (1ヶ月平均)</p> <p>入院患者実数 614 名 (1ヶ月平均) ※内科系のみ</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定専門医教育病院、日本呼吸器学会認定施設、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会指導施設、日本循環器学会認定循環器専門研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本神経学会教育施設、日本血液学会認定研修施設、日本東洋医学会専門医教育施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本救急医学会救急科専門医訓練施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医診療施設、日本心血管インターベンション学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、胸部・腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設 など</p>

## 21. 日本赤十字社大阪赤十字病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・大阪赤十字病院専攻医として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>・ハラスメントに関する相談体制が大阪赤十字病院内に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・病院に隣接した契約保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は35名在籍しています。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修推進室を設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022年度実績8回）し、専攻医に受講を義務付け、そのために時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPCを定期的に開催（2022年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・他研修施設と合同カンファレンス、地域参加型のカンファレンス（日赤フォーラム、大阪赤十字病院懇話会、消化器フォーラム等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2022年度開催実績2回：受講者11名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します。</li> <li>・特別連携施設（日本赤十字社 多可赤十字病院）の専門研修では、電話などにより指導医がその施設での研修指導を行います。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・70疾患のうちほぼ全疾患群について研修できます。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2020年度実績10体、2021年度実績18体、2022年度7体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研修に必要な図書室などを整備しています。</li> <li>・医療倫理審査委員会を設置し、定期的に開催（2022年度実績12回）しています。</li> <li>・治験事務局を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2022年度実績6回）しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2022年度実績9演題）をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>八幡 兼成 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪赤十字病院は、天王寺区という大阪市のほぼ中央に位置する、非常にアクセスの良い大阪市医療圏の中心的な急性期病院であり、他の大阪市医療圏・近隣医療圏にある基幹施設・連携施設・特別連携施設と内科専門研修を行い、必要に応じた柔軟性のある、救急医療、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、</p>



	診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を体感・実践できる“懐深き”内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 35名、日本内科学会総合内科専門医 23名、日本消化器病学会消化器専門医 10名、日本循環器学会循環器専門医 4名、日本糖尿病学会専門医 4名、日本腎臓学会専門医 3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6名、日本血液学会血液専門医 3名、日本神経学会神経内科専門医 6名、日本アレルギー学会専門医(内科) 2名、日本リウマチ学会専門医 1名、日本感染症学会専門医 1名、日本救急医学会救急科専門医 1名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 13,843名(1ヶ月平均) 入院患者 728名(1ヶ月平均) ※2022年度内科系
病床	909床 (一般:867床、精神42床)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本血液学会専門研修認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本不整脈心電学会クライオバルーンアブレーション認定施設、日本不整脈心電学会ホットバルーンアブレーション認定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本神経学会教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設(呼吸器内科)、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設、日本感染症学会研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設 など

## 22. 甲南会甲南医療センター

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境 (Wi-Fi) があります。</li> <li>・甲南医療センター常勤医として労務環境が保障されます。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署 (院内 心の相談窓口・公認心理士/臨床心理士) があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が (職員暴言・暴力担当窓口) が甲南医療センター内に設置されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が24名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として定期的に行い、医療倫理講習会 (2019年度実績1回、2020年度実績1回、2021年度実績1回)、医療安全講習会 (2019年度実績17回、2020年度実績3回、2021年度実績4回)、感染対策講習会 (2019年度実績3回、2020年度実績2回、2021年度実績2回) を開催し専攻医にも受講を義務付けます。</li> <li>・CPCを定期的に行い (2019年度実績3回、2020年度実績1回、2021年度実績5回)、専攻医に受講を義務付け、そのため時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に行い専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。関連学会での発表も定期的に行っています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>小別所 博 (脳神経内科) 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は 1934 年に甲南病院として眺望のすばらしい御影の山手に開院され、以後地域の基幹病院として地域医療に貢献してきました。建物の老朽化もあり、2017 年より建て替え工事が始まり、1 期工事が終了した 2019 年 10 月より甲南医療センターとして新しい一歩を踏み出しています。中でもこれまで以上に救急医療に力を入れ、年間約 5000 台の救急車を受け入れています。各診療科間の垣根は低く、指導医も多数在籍しており、内科医にとって必要なさまざまな経験を有意義に積めます。また、消化器病センター、血液浄化センター、IVR センター、PET センター、認知症疾患医療センターの 5 つのセンターが設立され、より質の高い医療を行える環境が整っています。2022 年春には II 期工事が完了し、グラウンドオープンを迎えました。新しくなった当院で是非いっしょに内科専門医研修をスタートさせましょう。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医24名、日本内科学会総合内科専門医22名、日本消化器病学会消化器専門医7名、日本肝臓学会肝臓専門医4名、日本循環器学会循環器専門医5名、日本糖尿病学会専門医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、日本血液学会血液専門医1名、日本腎臓学会専門医2名、日本神経学会神経内科専門医3名、日本臨床腫瘍学会腫瘍専門医1名 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 16,933 名 (1 ヶ月平均)、入院患者 10,235 名 (1 ヶ月平均)</p>

病床	461床
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の大部分の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが、内科医にとって必須である地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設 I、日本内分泌学会認定教育施設、日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設、日本呼吸器学会認定連携施設（基幹病院：神戸大学医学部附属病院）、日本血液学会血液研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）、日本神経学会准教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

### 23. 京都桂病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・嘱託常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・ハラスメント相談及び苦情対応窓口あり。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科指導医は25名在籍しています。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会 [統括責任者：宮田 仁美（血液浄化センター長、腎臓内科部長、指導医）， 統括副責任者：菱澤 方勝（血液内科部長、指導医）， 研修管理委員長：西村 尚志（呼吸器内科部長、指導医）]</li> <li>・専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と研修管理事務局を設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2022年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・内科合同カンファレンスを定期的に主催（2022年度実績11回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（IMEC-K）</li> <li>・CPC を定期的に開催（2022年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・西京医師会と共同し、地域参加型のカンファレンスを定期的多数開催しています。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022年度開催実績1回：受講者6名）</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に研修管理事務局が対応します。</li> <li>・特別連携施設（南丹みやま診療所）の専門研修では、電話や面談・カンファレンス・委員会などにより指導医がその施設での研修指導を行います。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。</li> <li>・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。</li> <li>・専門研修に必要な剖検を行っています。（2022年度実績4体）</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室を整備しています。</li> <li>・臨床倫理委員会を設置し、定期的開催しています。</li> <li>・治験委員会、臨床研究・倫理委員会が別があり、各毎月1回開催しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>宮田 仁美（血液浄化センター長、腎臓内科部長、指導医） 【内科専攻医へのメッセージ】 京都・乙訓医療圏南部の急性期病院で、地域がん診療拠点病院でかつ地域医療支援病院です。地域の医療施設と連携しつつ責任感を持って地域の医療に貢献しています。同時に、初期および後期臨床研修病院として、医師のみならず多くの医療職の教育研修を行ってきました。そのような環境の中で、内科という医療の中でも中核を担う領域で、全人的・患者中心かつ標準的・先進的内科</p>

	的医療の実践を志す内科専門医志望者を、連携病院とともに丁寧に育てていきたいと考えています。
指導医数 (常勤医)	内科指導医25名(2023.4) 日本内科学会指導医, 日本内科学会総合内科専門医(28名), 日本消化器病学会消化器専門医, 日本循環器学会循環器専門医, 日本糖尿病学会専門医, 日本腎臓病学会専門医, 日本呼吸器学会呼吸器専門医, 日本血液学会血液専門医, 日本神経学会神経内科専門医, 日本アレルギー学会専門医, 日本リウマチ学会専門医, 日本救急医学会救急科専門医, ほか
外来・入院患者数	総外来患者 185,322名(年間実数) 総入院患者 17,806名(年間実数)(2022.1-12)
病床	557床(一般病棟545床, 結核12床)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、骨髄移植推進財団非血縁者間骨髄採取・移植施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設 など

## 西神戸医療センター内科専門研修プログラム管理委員会

### 神戸市立西神戸医療センター

永澤 浩志 (プログラム統括責任者, 委員長, 循環器分野責任者)  
井谷 智尚 (プログラム管理者, 消化器内科分野責任者)  
森下 健次 (事務局代表, 総務課長, 学術研修部事務担当)  
多田 公英 (呼吸器分野責任者)  
柳原 千枝 (神経内科分野責任者)  
新里 偉咲 (血液・膠原病分野責任者)  
孫 徹 (内分泌・代謝分野責任者)  
宮川 一也 (総合内科分野責任者)  
垣田 浩子 (腎臓分野責任者)

### 連携施設担当委員

神戸市立医療センター中央市民病院	富井 啓介
神戸市立医療センター西市民病院	山下 幸政
京都大学医学部附属病院	加藤 貴雄
神戸大学医学部附属病院	三枝 淳
国立病院機構 神戸医療センター	三輪 陽一
北播磨総合医療センター	安友 佳朗
愛仁会明石医療センター	米倉 由利子
倫生会みどり病院	室生 卓
伯鳳会赤穂中央病院	矢部 博樹
日本赤十字社和歌山医療センター	豊福 守
札幌医科大学附属病院	我妻 康平
大阪府済生会中津病院	田中 敬雄
大阪府済生会野江病院	鉢嶺 大作
関西電力病院	濱野 利明
田附興風会北野病院	塚本 達雄
兵庫県立はりま姫路総合医療センター	大内 佐智子
宇治徳洲会病院	中野 忠澄
関西医科大学附属病院	塩島 一朗
丹後中央病院	濱田 暁彦
平戸市民病院	中桶 了太
兵庫県立尼崎総合医療センター	田中 麻理
甲南会甲南医療センター	小別所 博
大阪赤十字病院	尾崎 彰彦
京都桂病院	宮田 仁美

オブザーバー

内科専攻医代表 1

内科専攻医代表 2

西神戸医療センター 疾患群 症例 病歴要約 到達目標

別表1 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※ 3	
症例数※5	200以上 (外来は最大 20)	160以上 (外来は最大 16)	120以上	60以上		

- ※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
- ※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
- ※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)
- ※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。  
例)「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例
- ※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

新専門医制度 内科領域

# 西神戸医療センター 内科専門研修プログラム 専攻医研修マニュアル

専攻医研修マニュアル・・・・・・・・・・P.2

- 1) 専門研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先・・・・・・・・・・P.2
- 2) 専門研修の期間・・・・・・・・・・P.2
- 3) 研修施設群の各施設名・・・・・・・・・・P.2
- 4) プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名・・・・・・・・・・P.3
- 5) 各施設での研修内容と期間・・・・・・・・・・P.3
- 6) 主要な疾患の年間診療数・・・・・・・・・・P.3
- 7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安・・・・・・・・・・P.4
- 8) 自己評価と指導医評価，ならびに360度評価を行う時期とフィードバックの時期・・P.5
- 9) プログラム修了の基準・・・・・・・・・・P.5
- 10) 専門医申請に向けての手順・・・・・・・・・・P.6
- 11) プログラムにおける待遇，ならびに各施設における待遇・・・・・・・・・・P.6
- 12) プログラムの特色・・・・・・・・・・P.6
- 13) 継続した Subspecialty 領域の研修の可否・・・・・・・・・・P.7
- 14) 逆評価の方法とプログラム改良姿勢・・・・・・・・・・P.7
- 15) 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先・・・・P.7

各年次到達目標・・・・・・・・・・P.8

週間スケジュール・・・・・・・・・・P.9



# 西神戸医療センター内科専門研修プログラム 専攻医研修マニュアル

【整備基準 44 に対応】

## 1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- ① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- ② 内科系救急医療の専門医
- ③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
- ④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。西神戸医療センター内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、神戸市西地区医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整える経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。西神戸医療センター内科専門研修プログラム終了後には、西神戸医療センター内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

## 2) 専門研修の期間

基幹施設である神戸市立西神戸医療センター内科で、専門研修（専攻医）1年目、3年目に2年間の専門研修を行います。

## 3) 研修施設群の各施設名（プログラム冊子 p. 21～69「西神戸医療センター研修施設群」参照）

基幹施設：神戸市立西神戸医療センター

連携施設：神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市立医療センター西市民病院、京都大学医学部附属病院、神戸大学医学部附属病院、札幌医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センター、国立病院機構神戸医療センター、北播磨総合医療センター、愛仁会明石医療センター、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、甲南会甲南医療センター、兵庫県立尼崎総合医療センター、大阪府済生会中津病院、大阪府済生会野江病院、関西医科大学付属病院、関西電力病院、田附興風会北野病院、大阪赤十字病院、京都桂病院、宇治徳洲会病院、倫生会みどり病院、伯鳳会赤穂中央病院、丹後中央病院、平戸市民病院

医師 国家 試験 合格	初期臨床研修 2年	内科専門研修			内科・消化器内科
					内科・呼吸器内科
					内科・循環器内科
					内科・免疫・血液内科
		基幹施設 での研修	連携施設 での研修	基幹施設 での研修	内科・神経内科
					内科・内分泌糖尿内科
					内科・腎臓内科
	卒後1年	2年	3年	4年	5年
				病歴提出	筆記試験

図1. 西神戸医療センター内科専門研修プログラム（概念図）

#### 4) プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

西神戸医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（プログラム冊子 P. 70「西神戸医療センター内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

#### 5) 各施設での研修内容と期間

専攻医1年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）2年目の研修施設を調整し決定します。専門研修（専攻医）2年目の1年間，連携施設で研修をします（図1）。連携施設2～3施設で，それぞれ3～9ヶ月間の研修になります。

#### 6) 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である神戸市立西神戸医療センター診療科別診療実績を以下の表に示します。神戸市立西神戸医療センターは地域基幹病院であり，コモンディジーズから高度急性期医療まで幅広く診療しています。

2021年実績	入院患者実数（人/年）	外来延患者数（延人数/年）
消化器内科	1,305	36,691
呼吸器内科	716	13,281
循環器内科	600	14,779
免疫血液内科	325	18,935
脳神経内科	347	16,030
糖尿病内分泌内科	111	15,128
腎臓内科	276	8,523
総合内科	119	2,272

\* 膠原病（リウマチ）、アレルギー領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含め，1学年5名に対し十分な症例を経験可能です。

\* 8領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しています（プログラム冊子 P. 21「西神戸医療センタ

一内科専門研修施設群」参照).

\* 剖検体数は2018年度14体, 2019年度12体, 2020年度6体, 2021年度5体です.

## 7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず, 内科として入院患者を順次主担当医として担当します.

主担当医として, 入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで可能な範囲で経時的に, 診断・治療の流れを通じて, 一人一人の患者の全身状態, 社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します.

入院患者担当の目安(基幹施設: 神戸市立西神戸医療センターでの一例)

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます.

専攻医1人あたりの受持ち患者数は, 受持ち患者の重症度などを加味して, 担当指導医, Subspecialty 上級医の判断で5~10名程度を受持ちます. 感染症, 総合内科分野は, 適宜, 領域横断的に受持ちます.

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	1(専門)			2・3			4・5			6・7・8		
2年目	連携施設 A									連携施設 B		
	連携施設 A						連携施設 B					
	連携施設 A						連携施設 B			連携施設 C		
3年目	専門(予備)											

### 診療科1~8

消化器内科, 呼吸器内科, 循環器内科, 免疫・血液内科, 神経内科,  
内分泌・糖尿内科, 腎臓内科, 総合内科の8科

### 連携施設

神戸市立医療センター中央市民病院, 神戸市立医療センター西市民病院  
京都大学医学部附属病院, 神戸大学医学部附属病院, 札幌医科大学附属病院  
日本赤十字社和歌山医療センター, 国立病院機構神戸医療センター, 北播磨総合医療センター,  
愛仁会明石医療センター, 兵庫県立はりま姫路総合医療センター, 甲南会甲南医療センター  
兵庫県立尼崎総合医療センター, 大阪府済生会中津病院, 大阪府済生会野江病院  
関西医科大学付属病院, 関西電力病院, 田附興風会北野病院, 大阪赤十字病院  
京都桂病院, 宇治徳洲会病院, 倫生会みどり病院, 伯鳳会赤穂中央病院,  
丹後中央病院, 平戸市民病院

- \* 1年目、研修開始直後の3か月間は、希望する subspecialty 診療科あるいは希望選択科で研修を行います。その後は3か月単位で2科ずつ同時にローテートします。原則として、担当した患者さんは退院するまで診療にあたります。
- \* 2年目は、連携病院で幅広い領域の内科研修を継続しつつ、充足していない症例を研修します。上図はその一例です。連携施設での研修中は、希望により subspecialty 研修も可能です。
- \* 3年目は、subspecialty 研修が中心となります。未研修領域があれば、この間に併行して研修を行います。

## 救急当直

- 1年目は、週に1回程度の専攻医当直（準夜帯のみ：全科の初期救急対応と初期研修医の指導）を担当します。
- 2年目は、連携病院での当直業務を担当します。
- 3年目は月に2回程度の内科スタッフ当直（宿直：救急入院の適応判断と入院後処置、入院患者急変時の処置等）を担当します。

## 外来

- 1年目は、週に1回一般内科外来を担当します。（初診および再診）
- 2年目は、連携病院での外来業務を担当します。
- 3年目は、週に1回程度初診再診外来を担当します。

8) 自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行う時期とフィードバックの時期  
 毎年8月と2月とに自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。評価終了後、1か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

## 9) プログラム修了の基準

- ① 日本内科学会専攻医登録評価システム（以下 J-OSLER）を用いて、以下の i)～vi) の修了要件を満たすこと。
  - i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し、計200症例以上（外来症例は20症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上の症例（外来症例は登録症例の1割まで含むことができます）を経験し、登録済みです（P.8別表1「西神戸医療センター 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。
  - ii) 29病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています。
  - iii) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で2件以上あります。

- iv) JMECC 受講歴が 1 回あります.
  - v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります.
  - vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められます.
- ② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを西神戸医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約 1 か月前に西神戸医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.
- 〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります.

## 10) 専門医申請にむけての手順

### ① 必要な書類

- i) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
- ii) 履歴書
- iii) 西神戸医療センター内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

### ② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します.

### ③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります.

## 11) プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従う（プログラム冊子 P. 21「西神戸医療センター研修施設群」参照）.

## 12) プログラムの特色

- ① 本プログラムは、神戸市西地区医療圏の中心的な急性期病院である神戸市立西神戸医療センターを基幹施設として、神戸市西地区医療圏、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間です.
- ② 西神戸医療センター内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をも

って目標への到達とします。

- ③ 基幹施設である神戸市立西神戸医療センターは、神戸市西地区医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジェーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- ④ 基幹施設である神戸市立西神戸医療センターと連携施設での2年間（専攻医2年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、J-OSLERに登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます（P.8別表1「西神戸医療センター 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。
- ⑤ 西神戸医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修2年目の1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- ⑥ 基幹施設である神戸市立西神戸医療センターでの2年間と専門研修施設群での1年間（専攻医3年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（P.8別表1「西神戸医療センター 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を主担当医として経験し、J-OSLERに登録します。

### 13) 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

- カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合内科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科検査を担当します。結果として、Subspecialty 領域の研修につながります。
- カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

### 14) 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年8月と2月とに行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、西神戸医療センター内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

- 15) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先  
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

西神戸医療センター 疾患群 症例 病歴要約 到達目標

別表1 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標	
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※3	
症例数※5	200以上 (外来は最大20)	160以上 (外来は最大16)	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

別表 2

西神戸医療センター内科専門研修 週間スケジュール（循環器内科の例）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	朝カンファレンス（木曜日に抄読会）					担当患者の病態に応じた診療 講習会・学会参加	
		心臓カテ-テル 検査・治療	ペースメーカー 手術	心臓カテ-テル 検査・治療	心臓カテ-テル 検査・治療/ 心筋シンチ		
午後	心臓カテ-テル 検査・治療	心臓カテ-テル 検査・治療/ 心エコー/ 運動負荷試験	心エコー/ 運動負荷試験	入院患者 カンファレンス /病棟回診	心エコー/ 運動負荷試験		
	内科 カンファレンス	循環器 カンファレンス		合同 カンファレンス (不定期)			
	専攻医当直（17～24時：週1回程度）						

一般内科外来診療（曜日未定／週1回）

時間内救急当番（曜日未定／週1回）



新専門医制度 内科領域

# 西神戸医療センター 内科専門研修プログラム 指導医マニュアル

専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割	P. 2
専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法，ならびにフィードバックの方法と時期	P. 2
個別の症例経験に対する評価方法と評価基準	P. 3
日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の利用方法	P. 3
逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた指導医の指導状況把握	P. 3
指導に難渋する専攻医の扱い	P. 3
プログラムならびに各施設における指導医の待遇	P. 4
FD 講習の出席義務	P. 4
日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）の活用	P. 4
研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先	P. 4

# 西神戸医療センター内科専門研修プログラム 指導医マニュアル

【整備基準 45 に対応】

## 1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて 期待される指導医の役割

- 1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が西神戸医療センター内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- 担当指導医は、専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（以下 J-OSLER）にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や学術研修部からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリ内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時まで合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行います。

## 2) 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法、 ならびにフィードバックの方法と時期

- 年次到達目標は、研修プログラム冊子 P. 71「西神戸医療センター 疾患群 症例数 病歴要約 到達目標」に示すとおりです。
- 担当指導医は、学術研修部と協働して、3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリ内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、学術研修部と協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリ内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、学術研修部と協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 担当指導医は、学術研修部と協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360

度評価を行います。評価終了後、1か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形式的に指導します。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形式的に行って、改善を促します。

### 3) 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準

- 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価を行います。
- J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- 主担当医として適切に診療を行っている認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

### 4) 日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) の利用方法

- 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形式的フィードバックに用います。
- 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード (仮称) によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と学術研修部はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- 担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

### 5) 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、西神戸医療センター内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

### 6) 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時 (毎年 8 月と 2 月とに予定の他に) で、J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、

担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に西神戸医療センター内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形式的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

神戸市立西神戸医療センターおよび各施設の給与規定によります。

8) FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を熟読し、形式的に指導します。

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11) その他

特になし。